第１１９回　幻住庵俳句コンクール

番号	句	住所・氏名
151	古書店の奥からもれる梅かおり	栗東市中沢二　葛城　巌
152	桜咲く音の途切れぬ山の水	栗東市中沢二　葛城　巌
153	春蝶の地に下りてより息荒し	栗東市中沢二　葛城　巌
154	お握りは夕べの菜飯すまし汁	大津市光が丘一　大槻　幸恵
155	老木の見事枝振り初桜	大津市光が丘一　大槻　幸恵
156	木々の枝くっきり春の雪化粧	大津市光が丘一　大槻　幸恵
157	春を待つ駅業に様変わり	大津市光が丘一　大槻　幸恵
158	気まぐれな気温に惑ふ春ショール	摂津市南千里丘五　河野　善江
159	黄砂来る汚染も運れて海越えて	摂津市南千里丘五　河野　善江
160	草萌えや小犬の挨拶鼻と鼻	摂津市南千里丘五　河野　善江
161	タンポポを囲みて子らの弾む声	摂津市南千里丘五　河野　善江
162	地震の地の復興遅々と春寒し	摂津市南千里丘五　河野　善江
163	蛍鳥鵜青く光りて地震の海	摂津市南千里丘五　河野　善江
164	高原のレタスるり色小海線	摂津市南千里丘五　河野　善江
165	青空に溶けネモフィラの丘続く	摂津市南千里丘五　河野　善江
166	湖暮れてなほ空青し花辛夷	草津市若草三　井上　次雄
167	蟾の道蟾の島帽子の立ち並ぶ	草津市若草三　井上　次雄
168	足湯して近江の春を惜しみけり	草津市若草三　井上　次雄
169	すみれ咲く滅びの城の石垣に	草津市若草三　井上　次雄
170	児らは皆お尻濡らして潮干狩	草津市若草三　井上　次雄
171	末黒野に命の芽生え小糠雨	草津市若草三　井上　次雄
172	鼓無く構へよろしき雛かな	草津市若草三　井上　次雄
173	振って見て頼り無き音花の種	草津市若草三　井上　次雄
174	草の影曳いては野火の立ちあがる	草津市若草三　井上　次雄
175	庭つつじ裏山かけて燃えあがる	草津市若草三　井上　次雄

第１１９回　幻住庵俳句コンクール

番号	句	住所・氏名
176	愛しい人もう一度あいたい	枚方市東中　黒飛　敏子
177	「ようこそ」と言ふかに枝垂桜かな	摂津市南千里丘五　河野　善江
178	花の山を背に渡月橋人の波	摂津市南千里丘五　河野　善江
179	水温む湖風の中芭蕉庵	八千代市緑が丘　大久保　文夫
180	石山のさくらの前に式部像	八千代市緑が丘　大久保　文夫
181	こいつづり君とのこいは短くとも	枚方市船橋本町　猪飼　夏実
182	ありがとう私につかの間時間をくれ	枚方市船橋本町　猪飼　夏実
183	石山の苦むす石や聞きをりぬ	市川市新浜　中田　實
184	立春や千年の空薄日差す	市川市新浜　中田　實
185	石山の紅梅感じるミレニアム	松戸市古ケ崎　澤田　俊
186	石山寺の梅も勾配も千年不変だ	松戸市古ケ崎　澤田　俊
187	遠震戦士仲間と交わる酒	大津市田辺町　山田　和義
188	野に咲きしこれも花かや蕗の薹	大津市田辺町　山田　和義
189	囚われの身や側溝の姫女苑	大津市松本二　松田　翔
190	野仏に敵の手を合わせけり	大津市松本二　松田　翔
191	ふらここの光の海を漕ぎゆけり	大津市別保二　田中　文
192	陽炎や過疎の役場の仮庁舎	大津市別保二　田中　文
193	卒業の耳にピアスの穴四つ	大津市別保二　田中　文
194	三井寺の鐘の余韻の落花かな	大津市別保二　田中　文
195	労いをもらう助っ人春満月	京都市伏見区　本西　一
196	ウインドー君と私の春帽子	京都市伏見区　本西　一
197	敬老のパス見せあって桜まで	京都市伏見区　本西　一
198	蘊蓄を聞くも介護や囀れり	大津市里六　宮崎　正子
199	聞き流すことも大事や菜種梅雨	大津市里六　宮崎　正子
200	草萌やほうほう牛の尻を追い	大津市里六　宮崎　正子